

## 訪日外国人観光客の目的地選択の構造に関する基礎的研究 - 東北・仙台を例に -

東北工業大学 学生会員 ○幾世橋哲矢  
東北工業大学 正会員 泊 尚志

## 1. はじめに

近年、日本全体のインバウンド観光客数が増加傾向にある一方で、東北地方ではそのシェアが低い。理由の一つに、訪日外国人観光客に東北地方がそれほど認知されていないことが指摘されている<sup>1)</sup>。従来考えてられてきている目的地選択に関するモデル<sup>2)3)4)5)</sup>は大都市や有名な観光地が対象であったと考えられ、目的地に選択されにくい地域については明らかではない。この構造を明らかにすることは、観光客シェアが低い原因を探り、今後のアプローチを考慮していくために必要であるといえる。

そこで本研究では、外国人観光客が地方を目的地として選択する際の影響因子及びその関係性を明らかにすること狙いとしたうえで、「仙台」「東北」を例に関連する基礎的分析を行うことを目的とする。

## 2. 調査概要

仙台を訪れる外国人観光客の目的地選択の実態を把握するために、本稿では外国人観光客を対象に街頭調査を実施した。調査方法は、はがき版の調査票を街頭で配布し、その場で記入してもらい回収し、または後ほど記入してもらったあと郵送回収とした。調査は2017年12月21日、23日、25日、26日、2018年1月7日の5日間に、仙台駅近辺（2か所）、松島、青葉城近辺の計4か所で行った。調査項目は、被験者の属性のほか、旅行の「目的地」すなわちどこを訪れていると認識しているのかに基づく「目的地」（以下、同）、観光目的、検討した目的地候補（旅行の「目的地」を決める際に挙がっていた他地域の選択肢）、目的地をはじめて知った情報媒体である。64人に調査票を配布し、51人から回答を得た（回収率79.7%）。なお、調査票は英語、韓国語、中国語繁体字、中国語簡体字の4種類を用意し、回答者にこのうち1つを選んでもらった。回答者の出発国、地域は台湾26人（51%）、韓国5人

（10%）、アメリカ8人（15%）、フィリピン3人（6%）、イギリス・メキシコ・カナダ・ブラジル 各1人（各2%）であった。参考までに仙台市内の外国人宿泊者数<sup>6)</sup>の国・地域別割合をみると台湾31%、中国19%、韓国4%、香港3%、と続くことから、これに対して本調査回答者の国・地域の割合は台湾、韓国が高く、中国、香港はまったく含まれていないという特徴を有する（図1）。



図1 本調査サンプル、仙台市宿泊者数統計比較

## 3. 調査結果、考察

本章では、「目的地」選択の状況について出発国・地域別に把握するとともに、「目的地」を選択した際に他に候補となった「目的地」についても把握するため、これらの間の関係性について分析する。以下では、それぞれの項目間でクロス集計を行い、独立性の検定を行った。なお、有意水準はいずれも5%とする。

## (1) 出発国・地域別「目的地」

はじめに、出発国・地域をアジア（台湾・韓国）と欧米豪（米国、英国、豪州、カナダ）に分類し、出発国・地域と「目的地」について独立性の検定を行ったが有意差は得られなかった（ $df=1$ ,  $\chi^2=0.008$ ）。アジアからの観光客の「目的地」は仙台68%、東北32%であるのに対し、欧米豪からの観光客の「目的地」は仙台69%、東北31%であった。サンプル数が限られているものの今回の被験者においては、「目的地」を「仙台」または「東北」と認識する際に出発国・地域の遠近を問わな

いことが分かった。

## （2）「目的地」別目的地候補

つぎに、「目的地」と目的地候補の関係性を分析した。まず、全体を通して「東京」の回答が多かった。また、今回の結果には有意差が得られ ( $df=15$ ,  $\chi^2=27.0$ )、「目的地」によって目的地候補が異なることが明らかになった。「目的地」が仙台の場合は、「東京」に加え、「大阪」「京都」など国内他地域の大都市が挙げられる傾向にあり、「目的地」が東北の場合は、「青森」「秋田」「山形」等、東北地方の地域が挙げられる傾向にあることが分かった(図2)。

ここで、本稿における目的地候補とは、最終的な「目的地」と認識している地域を決める際に挙がっていた候補のことである。つまり、同じ地域に来たとしても目的地候補の違いによって、「目的地」として認識する地域が異なることが示唆された。「目的地」認識の範囲を調べることは今後の課題である。

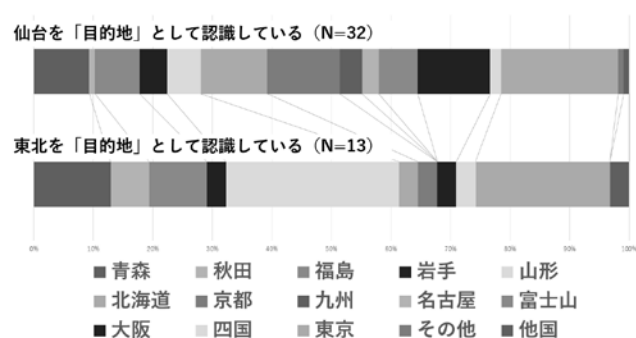


図2 「目的地」別目的地候補 重複回答あり (N=45)

## （3）出発国・地域別目的地候補

最後に、出発国・地域と目的地候補の関係性を分析した。まず、全体的に「東京」の回答が多かった。また、今回の結果には有意差が得られ ( $df=13$ ,  $\chi^2=31.1$ )、出発国・地域によって目的地候補が異なることが分かった。アジアからの観光客は「青森」「山形」など東北

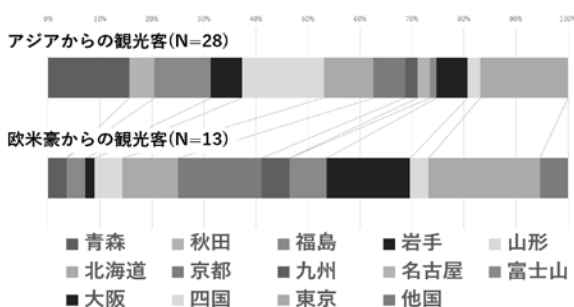


図3 出発国・地域別目的地候補 重複回答あり (N=41)

地方の地域が多く挙げられ、欧米豪からの観光客は「大阪」「京都」などの大都市が挙げられる傾向にあった(図3)。この結果には、出発国・地域ごとの訪問目的の傾向が影響していると考えられる。しかし、今回のサンプルでは有意差は得られなかったため、今後の追加調査によって関係性の有無を明らかにすることが必要である。

## 4. 結論

本稿では、仙台を訪れる外国人観光客の目的地選択の実態を把握するための街頭調査を行った。分析の結果、出発国・地域、「目的地」、目的地候補の間で以下の点が明らかになり、その関係は図4と通りに整理される。

1. 「目的地」によって目的地候補が異なる。「目的地」が仙台の場合は国内他地域の大都市が候補に挙げられ、「目的地」が東北の場合は東北地方の地域が多く挙げられる傾向にある。また、目的地候補の違いが「目的地」として認識する地域に影響を及ぼしていることが示唆された。
2. 出発国・地域によって目的地候補が異なる。アジアは東北地方の地域が候補に挙がり、欧米豪は大都市が挙がる傾向にあることが分かった。

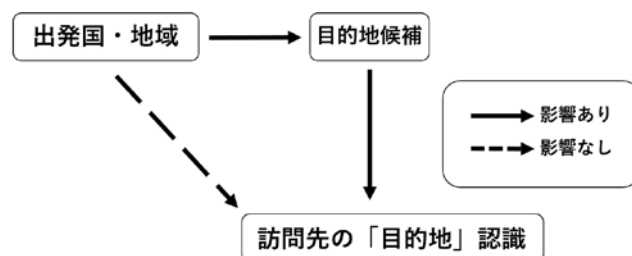


図4 本調査における目的地認識に及ぼす影響

## 参考文献

- 1) DBJ 2017 東北インバウンド意向調査
- 2) Schmoll, G.A. (1977) Tourism International Press, London
- 3) Mathson, A. and Wall, G. (1982) Tourism: Economic Physical and Social Impacts, Longman, London
- 4) Woodside, A.G. and Lysonski, S. (1989) A General Model of Traveler Destination Choice.
- 5) 佐々木師二 (2000) 旅行者行動に関する心理学
- 6) 仙台市：市内外国人宿泊者数統計 2016